

職員による自己評価

A業務改善

アンケートを実施し次年度の運営に繋げている。今年度は、年度初めに運営規程等の説明の場を設けることで改善を図った。外部研修の参加機会を十分に得ることは難しかった。

B適切な支援の提供

毎日支援開始前後に打合せを行い、内容や役割分担等を確認している。学期毎の業務の振返りも行っている。新たなプログラムを検討し取り入れるようにしたり、情報共有を密にして適切な支援を行えるようにしている。

C関係機関との連携

就園先への巡回を実施し、見学等も希望に合わせて受け入れている。小学校からの希望に応じて引継ぎを行っている。

D保護者への説明責任等

個別支援計画の支援内容は個別面談で説明を行っている。連絡シートを通じて保護者とのやり取りを深め、助言や相談に応じている。日々の療育内容はクラス便りや活動シートの配布、口頭にて保護者に伝えている。

E非常時等の対応

マチコミ配信の導入や、避難訓練前に全員で予行を実施している。入退室時の施錠の徹底を保護者へも依頼している。

保護者による評価

A適切な支援の提供

9割以上の方から適切な支援が提供されているという回答をいただいている。個別支援計画に基づいた支援と療育内容の工夫等は今後も取り組んでいきたい。

B保護者への説明等

説明や助言に関しては良い評価をいただいているが、懇談会が設けられず保護者同士の連携支援が不足していたという意見は多くいただくこととなった。

C非常時等の対応

避難訓練を全クラス同一時期に行うことで実施を周知することはできた。避難所等は契約書等に記載されているが、周知の仕方に工夫が必要であったと見受けられる。保護者にも関心を持っていただけるような取り組みの検討が必要。

D満足度

9割以上の方からセンターの支援に満足という回答をいただいている。子どもの行動や職員の対応の意味を保護者の方にフィードバックを行うことで、子どもとの関わり方を学ぶことができた、という意見をいただいた。子どもが楽しみにしているかについて「はい」は8割だった。

事業所内での分析

【共通点】

- ・日々の療育や保護者とのやり取りについて、一定水準はクリアしていると思われる。
- ・保護者同士の連携支援の強化が必要。
- ・非常時等のマニュアルの周知が必要。

【相違点】

- ・避難訓練の実施については保護者に伝えているが、非常時等の対応の周知は十分ではなかった。より分かりやすい周知の方法を検討する必要がある。
- ・その他相違点はなかった。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・保護者と職員のコミュニケーションや、お子さんの発達状況と課題についての共通理解を図ることができている。
- ・日々の活動のねらいを保護者の方にも理解してもらえるように、書面配布等によりお伝えをしている。
- ・職員間の情報共有や振り返り、支援内容の検討等が日々行っている。
- ・幼稚園、保育園への巡回訪問を実施することで、地域との関係性を大切にしている。

事業所の改善点

- ・非常時等マニュアルの周知の仕方についての検討。
- ・感染防止対策を講じた上での保護者同士の連携支援についての検討。

事業所の改善への取り組み

- ・非常時等マニュアルの周知について
職員間で内容を定期的に見直す。年度初めに読み合わせの時間を設ける。保護者にも関心を持っていただけるような取り組みを検討して実施する（避難具の写真や動画の提示、保護者参加型の訓練等）。
- ・感染防止対策を講じた上での保護者同士の連携支援について
日々実施している活動の振り返りの時間を活用するなど、柔軟な対応を検討していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

昨年度保護者アンケートで指摘のありました「運営規程、利用者負担等の説明」については、年度初めに改めて説明の機会を設けることで、今回は全員の方から良い評価をいただきました。自己評価の結果をもとに業務を改善していく事の重要性を感じています。

保護者同士の連携支援については利用者職員共に十分でなかったという意見を踏まえ、できる環境内でより良い療育サービスを提供できるよう今後検討していきたいと思っております。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。